



カレッジ情報2015

2015. 7. 7(火) 7月号

発行: 秋田県生涯学習センター



パソコン入門「タブレットにふれよう」(K1・K2)



ドコモCS東北秋田支店及びドコモショップ秋田新国道店の協力により、6月9日(火)・16日(火)の2日間、パソコン入門「タブレットにふれよう」を初めて開催しました。早くから申し込みがあり、定員いっぱいでの開催となりました。「タブレットに触るのは初めて」という方がほとんどでした。

最初に『タブレットとはどんなもの』と問われると、『スマートフォンそのものを大画面にして、取扱いがしやすいようにしたものというイメージです』との説明がありました。

た。タブレットは電話回線を利用して通信をしますので、実際のところは電話番号も割り振られており、電話として登録すれば、電話としても機能するのです。

タブレットにはキーボードがついていません。入力のための画面上に現れるキーボードに、一瞬、誰もが戸惑っていました。時間と共に戸惑いが薄れ、「慣れることが大事なんだな」と思わずにはいられませんでした。

専用のアプリを使って、インターネットや電子書籍を見ようとすると、操作感はパソコンと変わりませんし、画面拡大や縮小が簡単にでき、タブレットの手軽さ・便利さを実感できました。3時間という短い時間ではありましたが、タブレットの基本操作やアプリの活用法を学ぶことができ、好評でした。



7月にはこれからパソコンを始めてみようという方を対象にした「ほぼ初めてコース」(K3・4・5)、10月には年賀状の宛名書きをパソコンで一気に印刷したいというような方を対象にした「ちょっぴりできるコース」(K6・7・8)を予定しています。なお、それぞれ各回同じ内容で開催するので、同じ内容の講座(例えばK3とK4)を同時に申し込むことはできません。詳しくは当センターWebサイトやチラシをご覧ください。

講座の期日変更のお知らせ

以下の講座について、延期されていた開催日が決定しました。館内のポスターや配布チラシ、センターWebサイトなどでもお知らせしておりますので、ご確認下さい。また、変更日での新規申し込みも受け付けておりますので、詳しくはセンターまでお問い合わせ下さい。

A 1	事件で見る秋田の歴史「先史時代から元慶の乱まで」	10月3日(土) 13:30~15:00
A 2	事件で見る秋田の歴史「前九年・後三年合戦と秋田」	8月29日(土) 13:30~15:00
F 2	日常生活に役立つアラカルトVol. 2 「日々の暮らしに知っておきたい経済学」	8月8日(土) 10:00~11:30

カレッジ情報のバックナンバーは、秋田県生涯学習センターWebサイト
<http://www.pref.akita.lg.jp/lifelong/>からダウンロードすることができます。

まるごと大館!!～ふるさとの旅～ (U3・U4)



大館の魅力を多角的に掘り起こす行動人に学ぶ講座として、大館市立中央公民館で開講しているのが「まるごと大館!!」です。6月20日(土)に行われたU3講座は「再発見!大館の“食”」と題し、大館で採れる食材をふんだんに利用した料理について学びました。北秋倶楽部の石川博司社長が講師を務めてくださり、実際に受講者の前で食材を調理して試食もさせていただきました。受講者からは、「地産地消の観点からも、地元のよさを再発見できた」「味付けなども大変勉強になった」などの声が聞かれました。

また引き続き行われたU4講座は「ゴスペルに親しもう!」と題して、五十嵐優子氏と大館ゴスペルクワイヤ・ジョイフルシンガーズの皆さんが、素晴らしい歌声を披露して下さいました。また、黒人奴隷の歩んだ道のりからゴスペルのルーツなどについて学ぶこともできました。受講者が総立ちになって、手拍子をしながら一緒に歌う場面もあり、会場は熱気に包まれていました。



あいLOVEあきた D4 まるごとゆざわジオパーク

【移動学習】大地と歴史に触れる旅～地下資源の歴史を中心に～

講師：ゆざわジオパークガイドの会 加賀美 典明 氏・鈴木 清子 氏

開催日の6月27日(土)は朝から風雨が強く、予定通りの内容で開催できるか懸念される天候でした。この回のテーマは「地下資源の歴史」で、かつて湯沢で産出されていた「関口石」「院内石」を中心に講座が展開されました。周辺市町村の他、鹿角や秋田、由利本荘からも受講者が集まり、19名の参加となりました。事前学習として、集合会場の湯沢市役所で30分ほど座学を行った後、さっそくバスに乗って見学箇所を回りました。

市場関係者から日本一の品質と評価される三関さくらんぼは地形と土壌のたまものであること、耐火・耐水・耐圧に優れて重用された院内石を産出する院内地区は太古の火山活動によるカルデラであること、院内石が採掘されていた当時の人々の暮らしなど、大地と人が織りなす数々の物語が講師から語られました。受講者は長い年月と大地のダイナミックさに触れて、「スケールの大きさにびっくりした」と感動の声を上げていました。



事件で見る秋田の歴史 A4 「南北朝の動乱」と秋田

講師：秋田県公文書館 主任学芸主事 鈴木 満 氏



「戦国時代に入ると各地の大名は正統性を示そうと記録を残し始めるが、戦国期以前の秋田を語ろうとすると、当時の秋田在住の国人に関する史料が秋田の寺社などに残っていない」というところから講座は始まりました。安藤氏の家系を調べようとしても、「各地に散らばる数少ない関連資料を読みこなして、そこから個人を推定していくしかない」のが実情だそうです。特に、『正中二年九月十一日安藤宗季讓状』という史料は、全てひらがなで書かれており、この時代の文書には句読点がないため、「どこを区切りとして読むかで、地域を譲っているのか、役職を譲っているのか、解釈が変わらざるを得ない」ことは驚きでした。パズルのように様々な史料を組み合わせることで全体像を俯瞰していく歴史学の手法を実感することができました。

いるのか、解釈が変わらざるを得ない」ことは驚きでした。パズルのように様々な史料を組み合わせることで全体像を俯瞰していく歴史学の手法を実感することができました。